

## オレンジフェリーの新旧フェリー乗船会 さよなら「おれんじ 8」&こんにちは「おれんじえひめ」 (その 5)

事務局長 池田良穂

東予港に戻って、新しいターミナルビルで団体の受付をしてもらいチケットを手元にして、帰ってくる参加者を 4 階の待合室で待ちました。1 階はオープンカウンターの受付があり、エレベーターもしくはエスカレーターで 4 階の待合室に登るようになっていました。

売店や喫茶・レストランではなく、自動販売機が設置されているだけで、乗下船する機能だけに特化したターミナルになっていました。

出港の 2 時間前から乗船ができ、船内のレストランがオープンしているスタイルは、これまでと一緒です。乗用車の乗船も 20 時から始まりました。なお、大阪南港では、徒歩客も車も 8 時まで船内で留まることができますが、車の場合には乗船前に滞船を受付で申し出て、「滞船」のカードをもらって特別のレーンに車を駐車させる必要があります。6 時の到着から 8 時まで、船内で朝食をとりながらゆっくりできるとてもよいサービスです。

さて、来島海峡大橋の上で「おれんじ 8」の写真を撮影したグループは、今治からのフェリーの連絡バスを利用して 21 時頃に到着しました。みなさんよい写真が撮れたようで満足そうな顔が印象的でした。

これで全員が揃ったので、私も車を駐車場に回して、乗船しました。船内は大型トラック、乗用車でぎっしりと状況でした。モーダルシフトとともに、トラックドライバーの不足と過重労働を緩和するというニーズが、フェリーの追い風となっており、四国開発フェリーが大阪航路に全長 200m ぎりぎりという瀬戸内海で運航できるぎりぎりの大きさの船を投入する理由ともなっています。

さて、乗船して、先に乗船していた参加者とも会って、特にトラブルもないことを確認して、ようやく遅い夕食にありつきました。レストランは一杯で、空いたテーブルをみつけるのも大変な状況で、定食を頼むと時間がかかりそうなので、カフェテリア式のテーブルに並ぶ料理の中から、鯛のあら炊き等をピックアップして、それに生ビールとライスを頼みました。ライスの方は、他の定食や丼ものと同様に順番に呼び出してくれるとのことで、さっそくビールで喉を潤し、美味しい鯛をさかんなにワイン等も楽しみました。ちょうど食べ終わったところに番号が呼ばれ、ライスが到着。白ごはんだけでも寂しいので、つい小皿の料理を 1 品追加してしまい、やや食べ過ぎ状態に。

夕食を食べてデッキに出てみると、船はずでに東予港をでて、一路大阪へと向かっていました。この日に利用したのはデラックス・シングルという部屋で、窓もあるアウトサイドキャビン。これで正規料金は 8000 円ほどなので、移動費+ビジネスホテル 1 泊の費用を考え

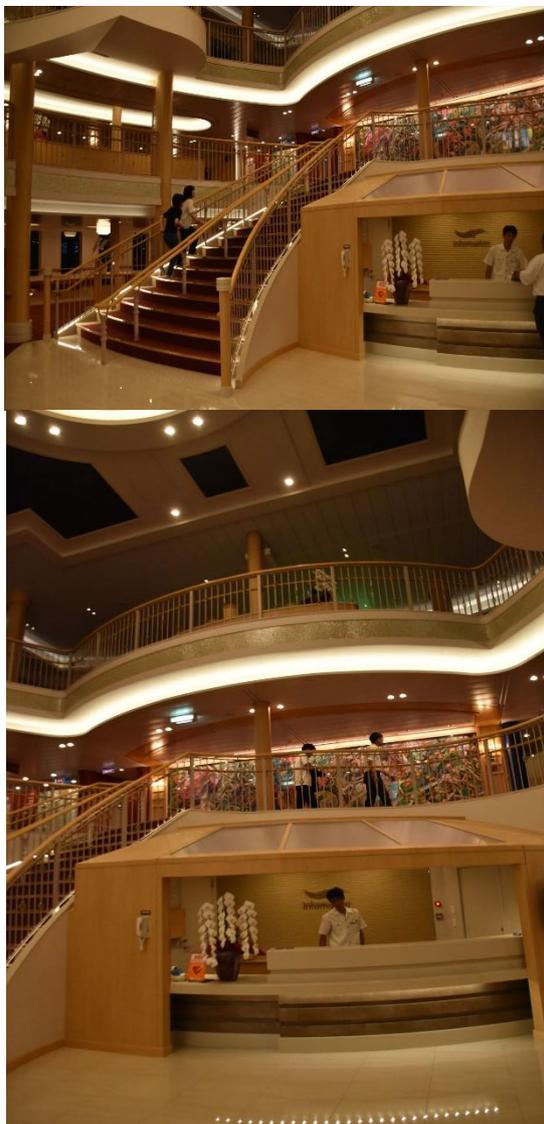
るとリーズナブルな料金です。新しい展望浴場に浸かり、ゆっくりと眠ることができました。

翌朝、大阪港に入る直前の 5 時半からデッキでシップウォッチング。小型のフィーダーコンテナ船や内航貨物船が数隻沖で待機中でした。

フェリーターミナルの前の海面で、その場回頭。船首・船尾のスラスターがフル稼働してスムーズに回り、船尾から着岸しました。隣には、名門大洋フェリーのフェリーが先に着岸していました。入港から着岸まで、デッキには参加者がでて真剣に見学していました。

この後、レストランで朝食を食べ、参加者の方々をお見送りしてから、8 時に下船。2 泊 3 日の船旅が終わりました。

「おれんじ 8」の今後の海外での活躍と、新船「おれんじえひめ」の安全航行を祈念します。



おれんじえひめの 3 層吹抜のロビーです。



夕食時のレストランでは、壁に定食、丼物、麺類が表示されていて、レジで注文すると、できた順に番号が呼び出されます。

カフェテリア式に 1 品料理はカウンターに並んでおり、好きなものをもってレジで精算します。ただライスとみそ汁はレジで注文して、番号が呼ばれます。



大阪港の郊外には数隻の小型船が停泊していました。



大阪南港に入るとき朝日が昇ってきました。



大阪南港には名門大洋フェリーの「フェリーふくおかⅡ」が先に着岸していました。

「おれんじおおさか」は、隣の岸壁につきます。大型化された「おれんじえひめ」の受け入れのために、棧橋には係船柱用のコンクリート構造が2つ新設されていました(写真の白いコンクリート構造物)。



5人の作業員が綱を引いていました。

以下、レストランでの朝食時の写真です。朝食は 870  
円で、バイキング式でした。

